

小作人プロジェクトチーム
— 稲作初体験の報告 —

私たちは、この春から初めて
の稲作を経験したグループです。

昨年の秋、門谷地区で山の作業にボランティアをしている私たちに、保存会の方から千枚田復田のお誘いがありました。

棚田を見てみるだけでもと数人で、現地のご案内・説明を聞くこと数回、だれ言うことなく「やってみようか？」という声が上がったのが、事の始まりでした。Aものしらすの蛮勇Vにちかい発想です。私(筆者)にしても、子供のころに、見たり、聞いたり、手伝わされたりの経験だけですから、いつ

の間にか責任者にさせられた時は、途方にくれたというのが正直な気持ちでした。

でも、仲間たちが、この千枚田の心地よさに魅せられたこと/地元の方の手助けがあること/兄(安雄・新城で農業)を頼りにできそうなこと……「まあ何とかなるだろう？」そんなスタートでした。

色々なトラブルも経験しました。株間が狭すぎて急遽株の間引きを指導していただいたり、不慣れに天候の不順も手伝ってイモチ病がでたり、台風の来襲で取水のホースが流された時などは、二日目に駆けつけた

ら、地元の方がすでに修復してくれていたのには、感謝するばかりでした。

十月五日(日)脱穀、籾米で二百六十三kgばかりの収穫でしたが、これまでの作業日は十三回、参加した人数は延べ二百五十六人にもなりました。

田おこしを始めた頃には十人ほどだったメンバーもいつの間にか三十人を越える人数になっていました。

高校生、大学生から七十歳にもなろうという方まで遠くは岐阜、知多、浜松から、三々五々手弁当で集まって来ます。

私たちは、千枚田で土に親しみ、汗を流し、地元の方を含めた人々と交流できることに楽しみや心地よさを求め、満足しているように思います。

田植えと稲刈りを体験するだけでなく、稲の成長を

見守り、季節の変化を体で感じ、里山の原風景に、まるとご身をおける気持ちの良さを味わいながら、この九ヶ月を過ごさせていただきました。地元の方々により感謝し、今後もよろしくお導きくださるようお願い申し上げます。

(常磐女学院・野澤俊晴)



山崩れ

今からちょうど百年前の明治三十七年(1904年)七月十日、午前十一時頃、梅雨時の長雨と紀伊半島に上陸した雨台風で鞍掛飛び渡りより山崩れが起こり死者十一人、家・木戸四、釜屋一軒、隠居屋三戸、馬二頭という未曾有な大惨事をもたら

らしました。

この大惨事は、飛び渡りの狭い谷間にトチの原木が倒れ、それに根むくれや倒木、土石がからんでダムとなり、それが決壊、山津波(土石流)となり一気に流下したものとわかれております。

山津波は人も家ものみ込み、天王川に沿って約六百m下方(水車小屋付近)まで流れ出し、沢沿いの棚田は壊滅してしまいました。

先人達はこの不幸にもめげず近隣の暖かい支援のもと、鍬とモッコで棚田復興に全力を注ぎ、わずか五年ほどで堅牢な石積み棚田を蘇らせました。

こんな血と汗の辛苦を耕作者や地域の人々は風化させることなく、先祖の残した偉大な財産、棚田を使命感をもって守り続けております。

農村アミニティ・コンク
ールに四谷地区が農林
水産大臣賞に選考され
ました

四谷地区が農村アミニテ
イ・コンクールに「幽玄な
る石仏群と美しき棚田の山
里」と題して県知事から推
薦されました。

―「農村アミニティ」と
は農村景観、豊富な野生動
植物、伝統文化、伝統工芸
などの幅広い分野にわたり、
これらの中で、農村住民が
居心地がよいと感じる眺め、
また、農村を訪れる人々に
とつてもゆとりとやすらぎ
を感じられる場所であるこ
ととされています。―

十月七日、第一回農村ア
ミニティ審査会が開催され、
農林水産大臣賞候補として
岩手(山形村)、愛知(鳳来町)、
京都(京北町)の三件が選考
されました。候補三件につ
いて十月下旬から十一月上

旬に現地調査を行い、最優
秀候補が選考されます。

四谷地区の現地調査は
十月二十八・二十九日に行
なわれます。

冷夏

今年の夏は、近年にない
異常気象でした。七、八月
の低温、多雨は観測史上始
まって以来といわれ、八月
の十四日などは肌寒い一日
でコタツを出した家もある
ほどです。浴衣を着て盆踊
りをしていても鳥肌が立つ
ほど寒かったことは思い出
に残ることでしょう。

「名古屋地方気象台提供
の気象月報でみると七月の
降雨日は二十三日(昨年十
三日)、八月は十八日(昨年十
一日)でした。多雨のため気
温も例年に比較して三〜
四℃低く推移したものと思
われます。」
多雨と冷夏で稲の作柄も

悪く、「はぎ干し」のはぎが
何処の家も余ってしまいま
した。また、彼岸花の開花
も例年より約十日も遅く、
十月に入ってやっと満開に
咲きました。彼岸花は球根
のため、冷夏で地温が冷え
ており、その影響で開花が
遅れたものと思われま



来訪

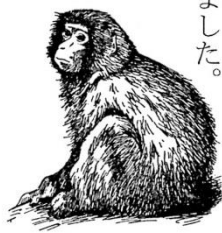
全国棚田サミットの立ち
上げにご尽力された「劇団
ふるさとときやらばん」の高
橋久代さんが九月二十一日
に四谷千枚田を訪れました。
高橋さんは、我が町で開
催される棚田サミットの招
請に大きな力を貸していた
いただいた方です。

猿はどこへ…

千枚田周辺で、あれほど
見られたサルが九月下旬頃
からパタツと見られなくな
りました。

そのかわり千枚田には大
勢の人達が訪れるようにな
り、土・日曜日などは百人
以上が訪れ、賑わいをみせ
ています。

情報では、サルは現在、
設楽町の神田集落で「悪さ」
をしているらしい。サルは
やたらに鉄砲で撃つたり、
罾で捕ったりすると巡査が
怒るので、いつまでも余所
の集落に居てほしいと思ひ
ます。おかげで、畑に作っ
たサツマイモや山のアケビ
を何十年ぶりで食べるこ
とができました。



トビックス

◇十月三日、NHKで「日本
まんなか紀行」が再放送さ
れました。そのなかで、現
在の状況を今泉良治さんが
語りました。

◇四谷千枚田が文化庁文化
財部記念物課による名勝
「文化的景観」の調査対象
になりました。(月刊文化財
九月号)

湧き水

▲最近、やたらと農作物の
盗難が目立つ。サクランボ
に始まり、リンゴ、メロン、
あげくは田圃の稲までも大
型コンバインで刈り取るな
ど無茶苦茶だ。天候も長雨、
冷夏と異常であったが、世
の中も異常続いだ。我が家
もコタツの下に銭を置かな
いようにしなくては…(舜)

発行 平成十五年十月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会